

漢方薬とエビデンス



漢方薬の中にも、科学的に効果が証明されたものがあります。

これを医学的にはエビデンス（evidence：「証拠」の意味）と言い、現代では科学的根拠に基づいた医療（Evidence Based Medicine: **EBM**）が求められています。

西洋薬は科学的に効果が証明されている

例えば通常、ある薬（A薬）が世の中に出るまでには、ごく簡単に言って次のような流れが必要になります。

① まず、症状の原因を**化学的に解析**して、それに効果があると思われる**成分**を抽出します。

② その症状も持つ**動物**（ラットなど）に投与して、**効果と安全性**を確認します。

③ 次に、まず**健康な人**たちに投与してみて、**安全であるかどうか**を確認します。

ここで初めて、**病気の人**で効果を確認めます。

④ 症状を持つたくさんの患者さんを**無作為に2つのグループ**に分けます。

そして一方には A 薬を、
もう一方には見た目では区別がつかない**擬似薬**（プラセボ）を飲んでもら
います。

※この時、処方する医師も、どちらが A 薬かは分からないようにしておき
ます。（**二重盲検法**と言います）

これで A 薬の方が明らかに効果があると判定されれば、**強いエビデンス**が得ら
れたということになります

漢方薬はエビデンスを示しにくい

一方、漢方ではどうでしょうか。

漢方薬の根拠は、**歴史的にたくさんの人に投与されて効果があったという実績**のみです。

これは残念ながら強いエビデンスとは言えません。

なぜ漢方では科学的証明が難しいのでしょうか。

以下のような理由が考えられます。

① 生薬はものによってはそのもので**数千種類の化学物質**が含まれており、どの成分に効果があるのかの証明が難しい。

② 漢方薬は**味・匂いが強く、プラセボが作りにくい**。

エビデンスが得られている漢方薬も存在する

しかし、最初にお示しした通り、最近では科学的に効果が証明された漢方薬も
多く出てきています。

特に有名なものに、手術後の腸閉塞予防に使われる「^{だいけんちゅうとう}大建中湯」や、食欲増
進作用が示された「^{りっくんしとう}六君子湯」などがあります。

最近では口内炎に対する「^{はんげしゃしんとう}半夏瀉心湯」の効果が示され、適応症に追加された
のは大きな進歩だと思われます。

科学的に効果の証明された漢方薬の例

大建中湯：消化管運動刺激作用

腸管癒着形成抑制作用

腸管血流増加作用

六君子湯：胃排出促進作用

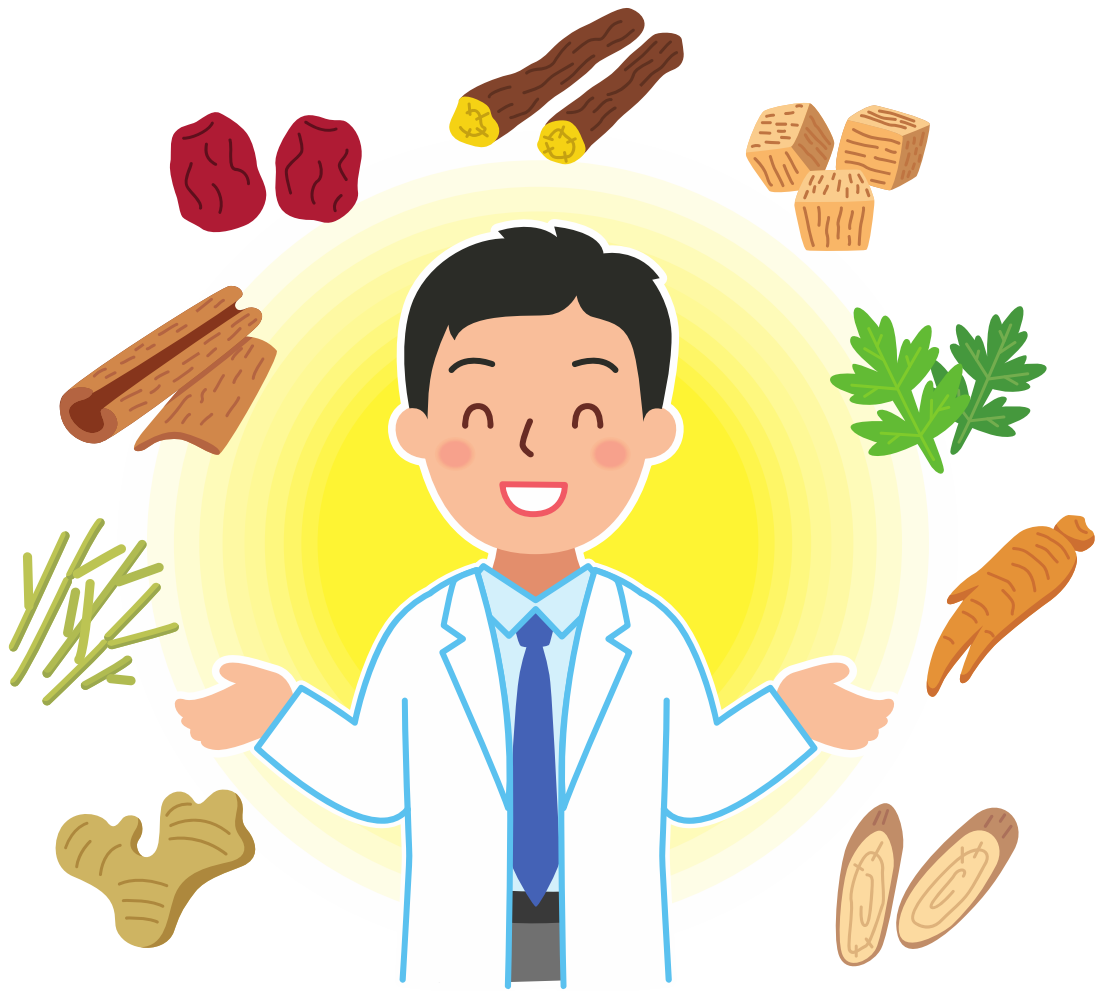
胃酸知覚過敏亢進抑制作用

グレリン分泌促進作用（食欲改善）

しかし、これはいずれも病名漢方ですから、今後は（気血水など）漢方的な診断・治療そのものに対するエビデンスを示していくことで、より患者さんに合った治療を提供できる可能性が高まると考えます。

一部の漢方薬では科学的根拠（エビデンス）が得られているが、
今後はより広い意味で漢方の効果を示していく必要がある

もちろん、これはより証明することが難しく、漢方の抱える大きな課題である
と思います。



漢方治療に興味のある方は消化器センター医師までご相談ください。